

北陸こども環境研究会 (11年度) 第6回定例セミナー「日々を語る」 報告

今回の定例セミナーでは、「日々を語る」と題して、イベント的な活動の陰に隠れぎみな日々活動についてスポットを当て、参加者全員がパネラーとなって各自の日頃の活動について話題提供し議論した。

1. 対象 子どもや環境に関心ある方々
2. 日時 2012年3月18日(日) 14:00-16:30
3. 場所 マリーマリー (呉羽山山頂の喫茶店)
4. 次第 (以降敬称略) テーマ:「日々を語る」
話題提供と討議

- ・水鳥美羽 (富山大学学生)
- ・増田準三 (NPO 立山自然保護ネットワーク)
- ・舛田ひょうかん (瓢箪芸術家)
- ・富樫豊 (建築人)
- ・栗原知子 (福井大学)
- ・早川隆志 (NPO 子ども遊ばせ隊)

次年度方針: 10分ほど



会場風景

話題と討議の内容を編者の方で以下にまとめた。

●水鳥美羽

富山大学2年生で生物を勉強しておられます。大学には人との出会いを求めてやってこられ、一時はがんばりすぎたこともあったが、今はたくさんの方々によって元気で勉学に励んでおられます。特に、早川さんとの出会いは、全学共通講義のひとつ早川さんの講義を受講したときです。早川さんの講義では、毎回とてもいいお話で大変感動しました。とのことです。

●増田準三

国の環境省の事業の一環で呉羽丘陵のモニタリング調査を月一回の頻度で行っておられます。これは、自然の変化をいち早く把握するためのもので、我らの調査報告を受けて国が対応することになっているとのこと。里山調査では、植物はもちろん、他の地域ではホタル、チョウなどの昆虫や鳥類も対象となっています。

氏は特に以下のことを力説されていた。

呉羽丘陵では、生態系を無視してめちゃくちゃなことをしている。間違いである。例えば、里山再生といいながら低木を皆伐したり、外来種を植えたり、竹林の伐採では数の少ないマダケをきってしまったっている。

氏は「自然の“なすがままに”を主張している。生物多様性

を捻じ曲げてその土地固有の植生を無視して生物多様性を創造というのは誤りである」と結んでおられた。

●舛田ひょうかん

県行政のあり方と自己表現について語った。県庁での業績としては、消費者生活センターを創出したことである。・・・中略・・・。中学時代から瓢箪愛好家であり、大沢野には瓢箪畑もある。最近、氷見に大邸宅を譲り受け、道楽を楽しみたいと思っている。竹林と瓢箪を楽しんでいる。

瓢箪をやり始めて培ってきた心情は、背伸びをしないこと、そのままを楽しむことである。とのこと。

●富樫豊

世の中における総合化と専門分化について、分業の是非を論じ、総合化の手立てをアプローチしているとのことであった。ちなみに、政治家がいまひとつなのは、彼らが分業化の中での勉強にとどまっているためであるとのこと。

●栗原知子

子供の遊びに着目して研究と実践をこれまで行ってきた。子どもの施設には生活力が身につくようなものにすべきだが、建築設計では特にこの点があまいので、実践と研究を進めていきたい。なお、心情としては、大自然との出会いが必要であり、そしてそれを楽しむことであると思っている。とのこと。

●早川隆志

論文「子ども力、遊び力」を作成した。子どもに備わった力をもっと引き出していくべきとの持論を展開されていた。その後、早川ルーツのうち二つについて述べておられた。

ひとつは皿回しの実践。ある大道芸人が「芸を見せて金を取るのもいいが、皆に事(遊ばせ)をさせて金を取るのもあり。皆さんが実際に参加することが一番大事」といっていた。私はそのことの重要さに気づいて皿回しを実践しているとのことであった。いまひとつはこどもと付き合うこと。これは自分の少年時代を振り返るということである、とのこと。

◆全体討論、

・ネットワークを作ろう。; 子ども遊ばせグループが立山の自然をたのしむといったように。

・この会議の目的は一体何? ただ話をしておしまいでは意味なし、という鋭い意見が出された。会議主催の方からは、会議に最初から明確な目的を持って聴衆を集めているわけではなく、皆さんと共に方向を考えていきたい。なおこうした会議の内容は関心ある多くの方にメール配信し、広く啓発も心がけている。とのことであった。

◆次年度方針

定例セミナーと特別セミナーの二本立てとする。

東海・関西・北陸の三地域合同セミナーを9月中旬に予定